

評価項目	重点目標	取組状況・成果・課題（自己評価）	評価	29年度に向けての改善策	学校関係者評価（学校評価委員会の意見等）
一人一人の自立に向けた力を伸ばす	確かな学力の育成	○3年生の少人数授業は落ち着いた取り組みで学力向上に効果があった。 ○技術家庭科、音楽等の少人数・同室複数指導は効果が上がっている。スクールサポーターの活用も定着してきた。 ○ALTの授業や放課後での個別指導は、進路の結果にも反映され効果を上げている。 ○全国、神戸市の学力調査でもおおむね良好な結果が得られた。	(4)	次年度は教員数の減少が見込まれる。少人数・同室複数授業の取り組みを工夫していきたい。意欲あるALTの取り組みを支援し、国際教育の充実を図りたい。	ALTの取り組みに協力してほしい。
	一人一人に応じたきめ細やかな指導の推進	○不登校の生徒は多いが、スクールカウンセラーや関係機関との連携、担任や学年職員の手厚い指導で登校できる生徒が増えている。 ○夏休み前に、スマホに関する講習会を実施した。 ○LINEに関する生徒同士のトラブルが増加。随時、学年を中心に対応・指導している。	(3)	特別な支援を必要とする生徒や不登校の生徒のため、引き続き関係機関との連携を図り、個に応じた丁寧な指導を心がけたい。SNSに対する意識の向上を図る為、校内でのマナー指導の機会を増やし、家庭での協力を積極的に求めたい。	不登校の生徒で欠席日数が多くても進学先があるのか。スマホについては地域でも保護者に対して呼びかけていくようにしていきたい。
	豊かな心を育む教育活動の推進	○体育会のダンス・組体操、各学年の宿泊行事は生徒の実行委員会を中心に充実している。 ○音楽コンクールでの各クラス・学年、文化祭での文化部・各教科の熱心な取り組みにより、舞台・展示とも充実した内容であった。 ○1年生のキャリア教育でのゲストティーチャーは好評であった。 ○学校司書の図書館運営が充実し、来館者数が増えている。教科授業との連携も始められている。	(4)	行事の練習においては、適切な練習時間を設定して道徳の授業時間を確保し、豊かな心を育む教育活動につなげていきたい。学校図書館の充実を基盤として、授業での活用・教職員の教材研究にもつなげていきたい。	行事での達成感に厳しい練習があっても生まれるもの。あまり極端に減らして内容の質を落とさないようにしてほしい。
教職員を磨き学校高めると	教職員の指導力・授業力アップのための研修・OJTの推進	○夏季の職員研修では、アクティブラーニングや生徒指導関係機関との連携、組立体操など、学校に対するニーズに応じた専門の講師を迎えて共通認識・理解を深め、2学期からの指導に役立てることができた。 ○校外でのOJT研修も積極的に紹介し、参加する職員が増えた。 ○初任者研修の一環としてスクールカウンセラーとの個別面談を実施し、個々の初任者に合わせたコミュニケーションスキルについてアドバイスを得た。	(4)	次年度もスクールカウンセラーによる若手の研修を実施していきたい。また、教職員間での共通理解事項を確認し、統一した指導ができる体制を維持していきたい。	スクールカウンセラーの活用が有意義であることを認識し、今後につなげてほしい。
	積極的な情報発信	○ホームページは、周辺の情報について各担当者が最新情報を更新する体制づくりができた。学年行事も当該学年で更新するようになっている。 ○PTA広報誌は全てカラー印刷。PTA日より・学校便りも順調に発行できた。 ○住中メイトも緊急連絡のための必要不可欠な情報ツールとなっている。	(4)	学校便りを前月末日に発行できるよう、計画を進めていきたい。HPや各便りでは、魅力ある画面・紙面の充実に向けて取り組んでいきたい。	前月末の発行は、ぜひ実施してもらいたい。
	安心・安全な学校づくり	○施設、設備の充実 ○環境保全の取組（KEMS）の推進	○中学校給食の校内運営はスムーズであったが、予約や入金に関する保護者からの問い合わせが多数あった。（健康教育課との連携ですべて解決済み） ○階段の手すりや下水の配管の修理等、適宜実施することができた。 ○KEMSの相互監査を無事通過した。（相互監査は本年度で終了）	(3)	給食の予約に関する保護者の理解を進めていきたい。事故を未然に防止する施設改修を継続したい。KEMSの活動は引き続き行っていく。
特色ある神戸の教育を更に発展させる	防災教育の推進 安全教育的推進	○追悼行事、防災学習、道徳など多様な防災教育を展開できた。六甲砂防事務所、神戸地方気象台による出前授業は体験学習も含めた充実した内容であった。 ○ジュニア防災チームの発足に向けて、メンバー募集等の準備を行った。 ○随時交通安全についての指導をしている。地域からバス乗車時や登下校のマナーでお叱りの声をよく聞いた。	(3)	ジュニア防災チームの発足・活動を早期実施したい。登下校のマナーについては地域の方々の協力も呼び掛けたい。	ジュニア防災チーム発足に協力したい。登下校時は地域でもよびかけをしていきたい。
	自信と誇りをもって「住吉」を語ることで育てる生徒を育てる	○文化祭での住吉歴史資料館の特別展示、六甲砂防事務所による出前授業は好評であった。1年生のプレ親学習では、今年度も地域からの講師を招く予定。 ○体育会の組立体操やダンスクリエイション、文化祭の音楽コンクールに対する生徒の取り組みからは、伝統がしっかりと受け継がれていることがわかる。	(4)	次年度文化祭での住吉歴史資料館の展示は70周年関連で決定。行事に対する「伝統」という言葉の取り扱いには注意していきたい。	「伝統」という言葉はやはり大切だと思う。伝統を受け継ぎながら、悪しき慣習はなくして欲しい。
	英語教育、理科教育、プレ親学習、キャリア教育の推進	○サマースクールに多数の生徒が参加、イングリッシュフェスティバルでは表彰を受けた。 ○科学部がサイエンスコンテストに出場し、神戸市で1位となった。 ○各学年でのプレ親学習では、乳幼児ふれあい体験が地域の保護者、幼稚園、保育所の協力で実りのある学習内容となっている。	(4)	英語・理科・プレ親学習・キャリア教育は、今後も様々な協力を得て、一歩踏み込んだ学習を進めていきたい。	プレ親学習での協力を続けていきたい。
供市の民育がえち自るをら共学にび支子	「地域と共にある学校」をめざし、地域力との連携強化を図る	○PTA活動も充実し、渦が森・住吉応援団、青少年協議会、保護司会等との連携強化を図り、生徒や学校を支援してもらえるしくみを充実させる。 ○地域からのだんじりの参加、盆踊り・住吉フェスタ、住吉川クリーン作戦などの参加は部活動を単位として積極的に行われている。	(4)	学校は多くの地域の団体に支えられている。地域の核となって、将来の住吉を担う人材育成を図っていきたい。	だんじりを持たない地区の生徒も参加できるようにしている。
	地域行事・ボランティア活動への参加促進	○神戸老人ホームで行われている日曜ふれあい喫茶の活動が定着した。吹奏楽部は出演依頼が増え、年間10回を数える地域での演奏活動を実施している。 ○生徒会は石巻市立住吉中学校を訪問、交流を継続した。また熊本地震をはじめ各種災害時に募金活動を行った。	(4)	学校で学んだことや経験を生かす場が地域の中にある。中学生にできることを自分たちで考え、取り組みを深めてほしい。	次年度は盆踊りが開港150周年で合同開催の1回のみになり、生徒の活躍の場が減るのが心配である。